

# 国立市は、ソーシャル・インクルージョンの理念の下、 人権・平和のまちづくりを推進しています

(ソーシャル・インクルージョン)

…全ての人を社会的孤立や排除から守り、社会の一員として包み支え合うこと

## 国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例

不当な差別及び暴力の禁止を規定しています  
(平成31年4月施行)

## 人権についてお困りの場合、ご利用ください

### <国立市が実施するもの>

#### 人権擁護委員による相談

**予約先** 042-576-2111 (内線 178) まちの振興課市民相談コーナー  
不当な差別等のご相談について、市の人権擁護委員が相談をお受けします。(お一人につき 60 分)  
**実施日** 毎月第 1 金曜日 (祝日・年末年始を除く) **実施時間** 午前 10 時～正午

#### S O G I 相談

**予約先** 042-501-6990 く に たち 男 女 平 等 参 画 ス テ ー シ ョ ン ・ パ ラ ソ ル  
性的指向、性自認など性別に関する相談を、専門相談員がご本人やそのご家族等からお受けします。(お一人につき 50 分)  
**実施日** 毎月①第 4 日曜日、②第 2 火曜日 (年末年始を除く) **実施時間** ①午後 2 時～4 時、②午後 4 時～6 時

#### 子どもの人権オンブズマン

子どもの権利を守り、助けるための公的機関です。学校のこと、友だちのこと、家族のこと、自分のこと、どんなことでも相談できます。相談は、無料電話、メール、手紙、来所等でお受けします。

**実施日** 平日 (祝日・年末年始を除く) **実施時間** 午前 8 時 30 分～午後 5 時  
**電 話** (フリーダイヤル) 0120-70-7830 **E メール** sec\_ombudsman@city.kunitachi.lg.jp  
**手 紙** 〒186-8501 子どもオンブズマン宛て (郵便番号だけで届きます)  
**来 所** 国立市役所 北庁舎 27 番

### <法務局が実施するもの>

#### みんなの人権 110 番 (法務局)

**0570-003-110** 全国共通人権相談ダイヤル  
おかけになった場所の最寄りの法務局につながり、法務局職員又は人権擁護委員が相談をお受けします。  
**実施日** 平日 (祝日・年末年始を除く) **実施時間** 午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分



※東京法務局では、SNS (LINE) による人権相談も受け付けています→

くにたち人権月間2025 関連企画

参加費無料

# ハンセン病問題を知る・考える

## 連続講座 と 施設見学・学習会



ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで引き起こされる感染症の一種です。現在では薬による治療だけで治すことができ、入院する必要もなく、仕事や通学を継続しながら治療できる普通の病気です。

ハンセン病問題とは、近代以降の国の間違ったハンセン病対策が原因で、患者、回復者およびその家族の方々の人権が侵害され、はなはだしい偏見差別にさらされた人権問題です。

(国立ハンセン病資料館ホームページより)

連続講座と施設見学・学習会を通して、人権が尊重される地域社会について考えます。

## 連続講座

⇒詳細は 2 ページ

### ① 講座「いま向き合うハンセン病の歴史」

**講師** 石居人也さん  
(一橋大学大学院社会学研究科教授)

**日時** 2025.12.13 (土) 14時～16時  
**会場** 国立市公民館 3階講座室

### ② ドキュメンタリー映画「凱歌」上映会 & 坂口香津美監督の講演

**日時** 2025.12.20 (土) 14時～16時30分  
**会場** 国立市公民館 地下ホール

### ③ ドキュメンタリー映画「かづ系的」上映会 & 熊谷博子監督の講演

**日時** 2026.1.17 (土) 14時～17時  
**会場** 国立市公民館 地下ホール

※1回だけの参加も可

【定員】各回40名 (申込先着順)

【申込】11.12 (水) より公民館へ電話

または申込フォームのいずれかにて

電話: 042-572-5141

【担当】国立市公民館



原則、連続講座に 1 回以上参加された方が対象

## 施設見学・学習会

⇒詳細は3ページ

2026.1.23 (金)

国立市役所発着の貸切バスで移動します

12時集合 (国立市役所) ⇒ バスで移動  
見学 ⇒ 17時30分頃帰着 (国立市役所)

国立ハンセン病  
資料館



国立療養所  
多磨全生園



【定員】25名程度 (申込先着順)

【申込】1月16日 (金) までに申込フォーム、

メール、電話のいずれかにて

電 話: 042-576-2111 (内線256)

メール: sec\_diversity@city.kunitachi.lg.jp

【担当】市長室



本企画は、厚生労働省の委託により公益財団法人笹川保健財団が実施している 2025 年度「ハンセン病対策促進事業」の助成を受けて実施します。

< 主催 > 国立市 (市長室)、国立市教育委員会 (公民館)

# 連続講座

講演とドキュメンタリー映画から、ハンセン病問題への理解を深めます

**講座①** 2025.12.13(土) 14時～16時  
国立市公民館 3階講座室

## 講座「いま向き合うハンセン病の歴史」

ハンセン病問題とはなにか、その差別や隔離の歴史、病者の生や優生思想などについて理解を深めながら、今日ハンセン病問題を考える意味を考えたいと思います。

＜講師：石居人也(いしい・ひとり)さんについて＞

一橋大学大学院社会学研究科教授、元・町田市立自由民権資料館学芸員。専攻は日本近現代史、医療衛生史(ハンセン病など)。研究テーマは近代の生・病・死をめぐる人と社会、都市と郊外の地域社会史(自由民権運動など)。

主な著書に『創られた明治、創られる明治―「明治150年」が問いかけるもの』(共編著、岩波書店、2018年)など。



石居人也さん

**講座②** 2025.12.20(土) 14時～16時30分  
国立市公民館 地下ホール

## がいか ドキュメンタリー映画「凱歌」上映会 & 坂口香津美監督の講演

＜映画「凱歌」について＞

2020年/90分/ドキュメンタリー/制作・配給 株式会社スーパーサウルス  
故郷を追われ、名前を変えさせられ、子どもを産む権利をも奪われたハンセン病の元患者夫婦の物語。東京都東村山市にある国立療養所多磨全生園を舞台に、9年間撮影されたドキュメンタリー映画。



**講座③** 2026.1.17(土) 14時～17時  
国立市公民館 地下ホール

## ドキュメンタリー映画「かづゑ的」上映会 & 熊谷博子監督の講演

＜映画「かづゑ的」について＞

2023年/119分/ドキュメンタリー/制作・配給 オフィス熊谷  
10歳から、瀬戸内海にある国立ハンセン病療養所、長島愛生園(岡山県瀬戸内市)で生きる、宮崎かづゑさんの長い道。90歳半ばになったかづゑさんは言う、「できるんよ、やろうと思えば。」



費用 無料  
定員 各回40名(申込先着順)  
申込 11.12(水)より公民館へ  
電話:042-572-5141 または申込フォーム  
※1講座のみの参加も可能です。



本連続講座は「施設見学・学習会」の事前学習としても位置付けています。  
ぜひ、施設見学・学習会にもご参加ください。

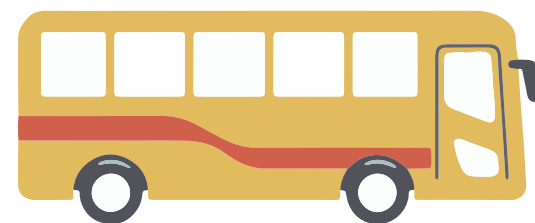
# 施設見学・学習会

東村山市に所在する2施設を見学し、ハンセン病問題への理解を深めます

2026年1月23日(金)

対象 原則、国立市公民館で行う連続講座に1回以上参加された方

費用 参加無料  
定員 25名程度(申込先着順)



国立市役所⇄現地  
無料貸切バスで移動します

――― 当日の大まかな流れ ―――

12時 国立市役所集合  
貸切バスで出発  
⇒13時 国立ハンセン病資料館到着  
(約90分) 資料館見学(学芸員ガイダンス付き)  
(約90分) 全生園見学(学芸員解説付き)  
⇒16時30分頃 貸切バスで出発  
⇒17時30分頃 国立市役所帰着、解散

※交通状況等により時間が多少前後する場合があります。詳細は参加者へお知らせします。  
※昼食の提供はありません。

――― 申込方法 ―――

1.16(金)までに申込フォーム、  
電話、メールのいずれかにて

電話:042-576-2111(内線256)  
メール:sec\_diversity@city.kunitachi.lg.jp  
(必要事項:人数、お名前、連絡先)

申込フォーム



## 国立ハンセン病資料館



所在地:東京都東村山市青葉町4-1-13

国が実施する普及啓発活動の一環として、患者・回復者とその家族の名誉回復を図るために、ハンセン病問題に関する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消を目指す施設。1993年に「高松宮記念ハンセン病資料館」として設立・開館し、その後規模を大きく広げ、2007年に「国立ハンセン病資料館」として再開館。2022年には来館者数50万人を達成。

## 国立療養所多磨全生園



所在地:東京都東村山市青葉町4-1-1

全国に13ある国立ハンセン病療養所の1つ。東京ドーム約8個分の面積がある。1909年に公立療養所第一区府県立全生病院として創立。1941年に厚生省に移管され、「国立療養所多磨全生園」として発足。1943年には1,518名の入所者がいたが、現在では約80名まで減少している。ハンセン病が治癒した方が様々な理由で入所されており、入所者一人ひとりに寄り添ったライフサポートに努めている。